
スカイスクレイパー

関村俊介

登場人物

堀 鈴木

出囃子が鳴って。漫才コンビが出てくる。

堀 はいどうも、スカイスクレイパーです。堀と鈴木でやっております。

鈴木 メガネのほうが堀で。メガネじゃないほうが鈴木です。

堀 他にもっと特徴あると思うんですけどね、男のほうが堀で、女のほうが鈴木です、とかね。

鈴木 逆流性食道炎のほうが堀で、そうじゃないほうが鈴木です。

堀 俺が逆流性食道炎に悩まされてるとか誰も知らないと思いますけどね。今日は名前と、逆流性食道炎の怖さだけでも憶えて帰ってください。

鈴木 よろしくお願いします。

堀 というわけで、はりきって行きましょう。

鈴木 ねえねえ。

堀 なんですか？鈴木さん。

鈴木 私、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。

堀 ん？なに？

鈴木 私、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。

堀 どうしたどうした。

鈴木 私、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。

堀 (お客さんに) ちょっとすみません。(鈴木に) 今日、そんなネタやる予定じゃなかったじゃん。つていうか、そんなネタ作ったことないじゃん。

鈴木 私、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。

堀 だから。

鈴木 ネタとかじゃなくて、マジで。

堀 そうなんだ、今、それを言う意味がわかんないな。

鈴木 だから、練習させてもらっていい？

堀 は？

鈴木 この場を借りて、練習したいから。私は、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行く人をやるから、堀くんは、宇宙エレベーターやって。

堀 宇宙エレベーターをやる。物だよ？

鈴木は少し距離をとって。

鈴木 これが宇宙エレベーターか。

堀 待って待って。

鈴木 堀くん。

堀 なに？

鈴木 宇宙エレベーターは、喋らない。

堀 うん。違う違う。そんなのどうでもいい。え？どっち？

鈴木 どっち？って。

堀 これは急にアドリブの漫才をやり始めたのか、それともただのリアルトークなのか。

鈴木 ただのリアルトークだよ。

堀 そうなんだ。

鈴木 マジで、って言ったでしょ。

堀 うん。だとしたらおかしいよ？

鈴木 なにが？

堀 本気で宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたいんだったら、ここで練習するのはおかしい。

鈴木 そう？いつもやってることじゃん。

堀 漫才においてはね。よくあるね、ここで練習するパターン。

鈴木 でしょ。

堀 でもね、これ、リアルだったら、練習する意味、ないよ。

鈴木 え？

堀 漫才で行われる練習は、あれ、意味ないやつだから。

鈴木 そうだったの？

堀 そうじゃないと思ってたなら、相当頭悪いよ？

鈴木 私、頭、悪くない。

堀 そう思うのは自由だけど。まあとにかく、今はちゃんとネタやろう。お願い。

鈴木 わかったよ。

堀 (お客さんに) すみません。(鈴木に) で、鈴木さんは何かやってみたいことある？

鈴木 私、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。

堀 だから！

鈴木 なに？

堀 ネタやれよ！

鈴木 堀くんが、何かやってみたいことある？、って聞くから、答えただけじゃん。

堀 そうなんだけど、昨日、ネタ合わせしたでしょ。

鈴木 したね。

堀 それを言ってくれる？

鈴木 あー、はいはい。

堀 （お客さんに）すみません。

鈴木 私、子供の頃からずっとになりたいものがあって。

堀 お、それはなんですか？

鈴木 看護師さん。

堀 そうだったんですか。どうして芸人になっちゃったんですかねえ。

鈴木 堀くんが土下座でお願いしてきたからだけど。

堀 それは言わなくていいんだよ。

鈴木 だからさ、芸人やめた後は看護師になって患者さんを救いたい。

堀 看護師になって患者さんを救いたい。

鈴木 そう、だから今日はその練習をさせてくれない？

堀 ああ、いいですよ。

鈴木 じゃあ、私、看護師やるから、堀くんは、葬儀屋さんやって。

堀 怖い怖い。それだと患者さん救えてないから。

鈴木 原因は私の医療ミスなの（笑顔）。

堀 怖い怖い。笑顔で言うな。そんな悲しい設定はやめましょうね。俺、患者やりますんで、鈴木さん

は看護師さんやってください。

鈴木　わかったよ。

堀は点滴をしたまま歩けるやつを持って歩いてくる。

堀　あ、すみません。

鈴木　どうしました？

堀　あの、お昼のぶんの薬が見当たらなくて。

鈴木は何かを考えている。

堀　お昼のぶんの薬が見当たらないですよ。

鈴木　…ここで練習しても意味ない、ってさっき言ってたよね？

堀　いいからやれよ看護師。

鈴木　ここで練習しても意味ないんだよね？

堀　意味ないけど、漫才ってそういうもんだから。

鈴木　意味ないって知っちゃったら、もうできないよ。

堀 うるせえなあ、やれよ看護師。

鈴木 ここで練習しても患者さんは救えないんだよね？

堀 本当に看護師になって患者さんを救いたいわけじゃないだろ？

鈴木 うん。

堀 ならいいだろ、ちゃんとやれよ。

鈴木 私、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。

堀 それなんなんだよ！何回言うんだよ。

鈴木 何回でも言うよ。

堀 もういい！俺1人でやる！

堀は1人2役でネタをやった。

堀 「あ、すみません。」「どうしました？」「あの、お昼のぶんの薬が見当たらなくて。」「じゃあ

これどうぞ。」「そんな簡単に薬くれるんですか？」「ええ。これ、ラムネなんです。」「ラムネかい！」
つまんねえよ！なんだこれ！

鈴木 堀くんが考えたネタだよ？

堀 そうなんだけど！なんなんだよ、どうするんだよこれ。

鈴木 大丈夫大丈夫。

堀 大丈夫じゃねえよ。

鈴木 ほら、もう持ち時間終わりだもん。

堀 え？

鈴木 出番終わり。どうもありがとうございましたー。

転換。

楽屋。

堀 どういうつもりだよ！

鈴木、堀を少し見てから。

鈴木 おつかれさまでーす。

鈴木、帰ろうとする。

堀 待て待て。

鈴木 なに？

堀 どういうつもりだよ、って言うてんの。

鈴木 なにが？

堀 さっきの！

鈴木 …ああ、堀くんのカレーパンにお湯をかけてびしょびしょにした件？

堀 それじゃない！それにもむかついてるけど、今はそれじゃない！

鈴木 あれはさ、逆流性食道炎なのに揚げもの食べようとしてるから、少しでも油を抜こうと思ってさ。

堀 ご心配いただきありがとうございます！でもそれじゃない！

鈴木 そうなんだ。

堀 なんで本番中にあんなこと言い出したの？

鈴木 宇宙エレベーターの件？

堀 そうだよ。

鈴木 あそこで練習したかったからだよ。

堀 おかしいだろ。

鈴木 知らない？ついにできるんだよ？

堀 知ってるけど。

鈴木 乗りたいじゃん。

堀 乗りたいのはわかったけど、舞台上で言うことじゃないでしょ。

鈴木 ちよっと乗りたいとかじゃないよ？猛烈に乗りたいんだよ？

堀 だとしても、おかしいでしょ。

鈴木 あ。本当はよくわかってないでしょ。

堀 なにを？

鈴木 宇宙エレベーターがなんなのか。

堀 わかってるよ。

鈴木 本当かなあ。

堀 テレビで見たことあるから。

鈴木 そのわりには、温度が低いんだよなあ。知ったかぶりでしょ。

堀 本当に知ってるわ。

鈴木 えー？

堀 宇宙まで行けるエレベーターだろ？

鈴木 あー。やっぱり、その程度の知識なんだ。

堀 いやいや、あれだろ。静止衛星っていう、地球の時点と同じ速さで動いている人工衛星と繋がるんだろう？

鈴木 うん。

堀 だから、一番作りやすい赤道上に作ろうとしてるっていう。

鈴木 それだけ？

堀 昔からアイディアだけはあったんだけど、それを作れる素材がなかったんだよな。でも、カーボンナノチューブっていうのが発見されて、それを使って、日本の建設会社が作ろうとしてるんだろ。

鈴木 ……そうなんだ。

堀 俺のほうが詳しいじゃねえか。

鈴木 とにかくついにできるんだよ、宇宙エレベーター。なのに、なんでそんなに冷静でいられるんだよ。

堀 そんなに興味ないだけだよ。

鈴木 興味ないとかある！？

堀 あるだろ。

鈴木 おかしいよ！堀くん！

堀 なんで俺が怒られてんの？

鈴木 宇宙エレベーター、乗りたいでしょ？

堀 乗りたいけどさ。

鈴木 じゃあ練習したほうがいいでしょ！

堀 …いつできると思ってんだよ！

鈴木 え？

堀 宇宙エレベーター。いつ完成すると思ってんだよ。

鈴木 来週くらい？

堀 完成予定2050年だから。

鈴木 2050年。

堀 そうだよ。

鈴木 …今って、何年なの？

堀 今年が何年なのかわからないことなんかあるのかよ。タイムトラベラーか。「ついにタイムマシンが完成したぞ、さっそく乗ってみよう。ん？コントロールが利かない！まずい！このままだとの時代に行ってしまうかわからないぞ。うわー！」ってなって、未来からやって来た人か。

鈴木 未来からやって来た人ではない。

堀 知ってるよ。

鈴木　ねえ、今は何年なの？

堀　2030年だよ。

鈴木　ああ、カレンダーに書いてある2030ってそういう意味だったのか。

堀　どういう教育受けてきたんだよ。

鈴木　2050年に完成予定で、今が2030年。ということは。

堀　引き算できるかなあ。

鈴木　完成は、20年後だ。

堀　正解、よくできました。

鈴木　これくらいできるよ。バカにしないでよ。

堀　鈴木さんの口から、バカにする要素が次々と出てくるから、バカにしてんだよ。

鈴木　私、頭、悪くない。

堀　本当、そう思うのは自由だけど。

鈴木　完成が20年後だとしてもさ、乗りたい気持ちに変わりはないよ。

堀　あ、そう。

鈴木　うん。私は、宇宙エレベーターに乗って宇宙に行きたい。じゃあ、おつかれさまでした。

鈴木、帰ろうとする。

堀 待て待て。

鈴木 なに？話は終わったでしょ？

堀 終わってねえよ。話がスライドしたうえに、着地も決まってねえんだよ。

鈴木 なに？

堀 もうああいうことしないで。

鈴木 え？

堀 もうああいうことしない、って約束して。

鈴木 わかったわかった、約束する。もうカレーパンにお湯はかけない。

堀 鈴木い。

鈴木 なに？

堀 それじゃない！

鈴木 じゃあ、どれ？

堀 なぜわからない。

鈴木 知能指数が20違うと会話が噛み合わないっていう俗説があるんだって。だからじゃない？

堀 俗説って言っちゃってんじゃないか。

鈴木 なにが言いたいのか？早く帰りたいんだよ。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

スカイスクレイパー（おためしサンプル）

2019年12月9日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2019年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
